同志社の一貫教育

hitohito-Li

同志社一貫教育探求センター
所長　大久保（おおくぼ）雅史（まさし）

一貫教育探求センター（以下「センター」という。）は、２０１９年に新設され、これまで機関誌 hitohito-Li にて、センターの取組みを紹介してきましたが、今後は同志社時報やオリジナルサイトを活用していくことになりました。今回は、センターの設立経緯・目的、取組みをご紹介します。

私は、２００４年に大学工学部（現、理工学部）に着任しましたが、着任当時から同志社の素晴らしさは、創立者新島襄の宿志に根差した教育事業を連綿と遂行できている事だと思っています。同志社は２つの大学、４つの中学校・高等学校、２つの小学校、そして幼稚園を有していますが、幼稚園から大学に至るまで、幼児、初等、中等、高等教育の各段階で建学の精神とも言える良心教育が語られ、教学に根付いています。

これらは、法人内各学校が自治自立のもとで、同志社教育を推し進めてきた努力と輝かしい歴史がなせた結果です。しかしながら、縦と横の連携による取組みとしては、同志社一貫教育委員会が実施してきた合同学校説明会、研修・交流会や相互の授業見学会が主だったものでした。私自身、以前に一貫教育委員会委員長として、一貫教育に携わってきたなかで、縦横の充実において重要な役割を果たしてきたと自負しておりますが、委員会形式のため、どうしても無難な調整的役割とならざるを得なかった側面は否めません。また、近年では、中高一貫教育や小中一貫教育が増えるなど従来の小中高大の枠組みを超えた取り組みが行われています。加えて、公立高校等の無償化や少子化による大学全入時代を迎えるなど、私学には逆風ともいえる状況です。

そこで、推薦制度による学生の送り出し、受け入れにとどまらない、有機的な連携による同志社一貫教育の確立・深化を目的にセンターが設置されました。

私自身も、一般入試や指定校推薦などで大学から同志社に入学してくる学生・留学生等や、法人内各学校で同志社教育を受けてきた推薦学生など、様々な土台をもつ学生達が、キャンパスで切磋琢磨しながら共に学び、競い助け合うことが、同志社の目指す人物養成には欠かせないと考えています。

現在、センターでは、一貫教育委員会の事業を継承するとともに、中長期目標に

・同志社らしい一貫教育の探求
・同志社のブランド力強化
・法人内情報の共有

・新たな学びの展開
・150周年記念事業との連携

などを据えて、様々な取組みを検討・展開しています。これらの実現には、教職員はもとより、卒業生、保護者をはじめ、同志社に関係する皆様のご理解、ご協力が必須です。ぜひともご支援を賜りますようお願い申し上げる次第です。

「法人内高校生の同志社大学科目履修」について

法人内高校生が高校在学中に同志社大学の正課科目を履修することが2023年度から可能となりました。

この取組みは法人内高校生が、早期に大学教育に触れることで、学習意欲の向上やより高い目的意識をもっての大学進学につながり、一貫教育の更なる深化と連携強化、ひいては同志社のブランド力強化にも寄与することを目的としています。

昨今の情報技術の発展に伴い、大企業の約半数が経営企画や製品企画、マーケティングにデータを活用、約2割がさらに高度なAIや機械学習技術をビジネスに利用、加えて、大企業の約5割がデータ分析専門の部署を置いているといわれるように、現代社会におけるデータの利活用は急速に広がりました。これまでのように、自分は文系であるからと言って、データサイエンスとは無関係でいられる時代ではありません。なぜなら、データ分析に関する知識技能は、現代の「読み・書き・そろばん」であり、社会人基礎力として必要とされているからです。

そのような背景のもと、今回履修対象科目となる「データサイエンス概論」は、「同志社データサイエンス・AI教育プログラム（DDASH）」における必修科目であり、数理・データサイエンス・AIに関する概論的なリテラシーレベルの講義です。そのため、高校生にとっても取組みやすく、かつ前提知識を必要とせず、データ分析に関する基本的な知識を身に付けることができます。

また、当該科目はオンラインによるオンデマンド配信授業であり、高校の授業や課外活動への影響も少なく、法人内高校生にとってチャレンジしやすい科目です。さらに、大学入学後には各学部における「入学前単位認定」制度の適用が想定されています。

今後3年間の試行的段階では1科目からのスタートとなりますが、本取組みは、一貫教育探求センターの提言（同志社社報臨時2020―4号）を踏まえ、八田総長・理事長から植木大学長に要請がなされ実現し

ました。このような経緯からも、一貫教育がより一層充実することを願っています。

「教職員による自主的研究会」について

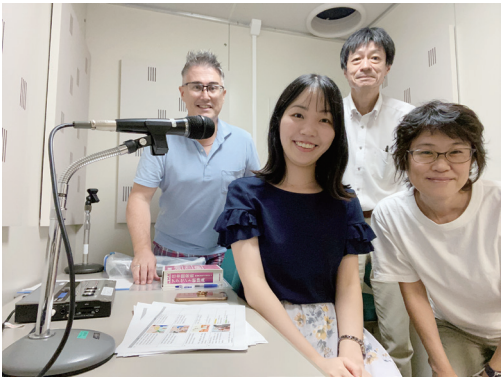
センターが開設された2019年以降、毎年教職員の申請に基づき、センターで選考の上、多くの自主的研究会を支援してきました。

例えば、主に幼稚園児・小学校低学年児童・留学生を対象とし、日本語及び英語で新島襄の生涯とその志への理解を深められる教材開発を目指す「七五三太（Shimeta）の会」や数学・算数のカリキュラムや授業改善について、同志社一貫教育の観点から研究する「同志社数学・算数教育研究会」などです。

七五三太（Shimeta）の会研究成果

私学同志社として、建学の精神のもとで各学校において、多様な人物を養成できていることは、多くの教職員の努力の賜です。このように自主的に取り組んでおられる教育に関する研究や活動を一層推進することができるよう支援し、英知を結集することができれば同志社教育の一層の深化につながると期待しています。

同志社データサイエンス・AI教育プログラムサイト（https://doshisha-vision2025.jp/ddash/）から一部引用しています。



七五三太（Shimeta）の会 ナレーション制作時
・前列左側：ナレーター
美濃　咲帆さん（大学社会学部社会学科3年）
・前列右側：研究代表
青田　忍（国際学院教諭）
・後列左側：研究員
スコット・ヘンプヒル：Scott HEMPHILL（国際学院教諭）
・後列右側：研究員
松本　秀輔（大学日本語・日本文化教育センター准教授）